東京湾再生官民連携フォーラム
令和４年度事業報告

令和５年３月

東京湾再生官民連携フォーラム

内 容

Ⅰ．事業期間 4

Ⅱ．主な事業項目 4

1．一般財団法人セブン-イレブン記念財団との基本協定書　2022 年度～2024 年度協定書の締結..... 4

2．東京湾再生のための行動計画（第三期）にむけての活動 4

3．交流・連携事業の実施 4

４．東京湾再生官民連携フォーラム　企画運営委員会の開催..... 4

５．東京湾再生官民連携フォーラム　令和４年度通常総会の開催 4

６．海ごみ・プラスチックゴミクリーンアップ活動の実施..... 4

７．プロジェクトチームの活動 4

８．東京湾大感謝祭 2022 リアルイベントの開催 5

９．会員関連団体などの事業との東京湾再生官民連携フォーラムの協力、後援・協賛等の実施..... 5

10．東京湾の日・10 月 1 日 PR 活動 5

Ⅲ．事業実施経過と成果..... 5

1．一般財団法人セブン-イレブン記念財団との基本協定書 5

2022 年度～2024 年度協定書の締結。3 年間の協力を定めた。 5

2．東京湾再生のための行動計画（第三期）にむけての活動 5

３．交流・連携事業の実施..... 9

3.1 令和４年度　ＣＳＲ－ＮＰＯ未来交流会 9

3.2 「10 月 1 日・東京湾の日」 第 2 回　川柳&PHOTO コンテストの実施 10

3-3.東京湾大感謝祭 2022 リアル開催に伴うサポート支援の実施 12

3-4.ＰＴ連携の推進 13

3.5 交流参加活動 13

４．東京湾再生官民連携フォーラム　企画運営委員会の開催..... 15

５．東京湾再生官民連携フォーラム　令和４年度第 10 回通常総会の開催 17

６．海ごみ・プラスチックゴミクリーンアップ活動の実施..... 20
7. プロジェクトチーム（PT）の活動..... 21
１）生き物生息場つくりＰＴ：（佐々木 PT 長） 21
２）東京湾再生のための行動計画の指標の活用ＰＴ：（岡田 PT 長）..... 21
３）モニタリング推進ＰＴ：(古川 PT 長)..... 22
４）東京湾大感謝祭ＰＴ： (木村 PT 長）..... 23
５）江戸前ブランド育成ＰＴ： (牧野 PT 長)..... 25
６）東京湾パブリック・アクセス方策検討ＰＴ： (竹口 PT 長)..... 25
７）海水浴復活方策ＰＴ　(関口 PT 長）..... 25
８）東京湾の窓ＰＴ（芝原 PT 長)..... 26
９）東京湾浅瀬再生実験ＰＴ（鈴木 PT 長) 26
10）多摩川河口干潟ワイズユースＰＴ（竹山 PT 長） 26
令和４年度 プロジェクトチーム終了届け一覧 26
８．東京湾再生官民連携フォーラム 共催、後援、協力等の実施 27
９．東京湾の日・10 月 1 日 PR 活動 28
10.　会員募集・広報活動..... 29
10.1　東京湾 NEWS-LETTER 配信..... 29
10.2 会員募集 32
10.3 東京湾/フォーラム活動の紹介・各地への情報発信 33

Ⅰ．事業期間

令和４年（2022）４月１日（金)～ 令和５年（2023）３月 31 日(金)

令和４年度は、東京湾再生のための行動計画（第二期）の終了年度となり第三期への移行期にあたる。これに伴い、第二期の成果と反省を踏まえつつ、第三期にむけた検討が随所で行われた。東京湾再生官民連携フォーラム全体での見直しを進め、さらにはプロジェクトチーム（PT）内でのミッションの再検討が行われた。また新しい勉強会の試み（江戸前勉強会　主宰 古川 PT 長）が行われた。

３年ぶりに東京湾大感謝祭 2022 をリアル開催するなど、コロナ対応を念頭に対策を取りつつ現場での活動を行ってきた。

Ⅱ．主な事業項目

主な活動事業項目は以下の通り。

1. 一般財団法人セブン-イレブン記念財団との基本協定書　2022 年度～2024 年度協定書の締結
2. 東京湾再生のための行動計画（第三期）にむけての活動
   - 2-1.東京湾再生のための行動計画（第三期）への意見集約
   - 2-2.プロジェクトチーム活動の総括
   - 2-3.冊子「東京湾への未来 2013-2032」の発行
3. 交流・連携事業の実施
   - 3-1.令和５年３月 23 日「ＣＳＲ-ＮＰＯ未来交流会」の開催
   - 3-2.「10 月１日・東京湾の日」 第２回　川柳&photo コンテストの実施
   - 3-3.東京湾大感謝祭 2022 リアル開催に伴うサポート支援
   - 3-4.PT 連携の推進

     浦安三番瀬を大切にする会主催、浦安市共催、東京湾再生官民連携フォーラム後援
   - 3-5.交流参加活動

     (一財)セブン-イレブン記念財団主催　ウェブセミナー「生物多様性×市民活動のミライ」への参加

     開催日時　９月 10 日（土）10:00～12:30　Zoom 視聴

４．東京湾再生官民連携フォーラム　企画運営委員会の開催

企画運営委員会は、年３回の実施。対面と Zoom を併用。

５．東京湾再生官民連携フォーラム　令和４年度通常総会の開催

東京湾の日に合わせて令和４年 10 月１日、Zoom 利用による総会の開催。令和３年度活動報告及び令和４年度活動計画、プロジェクトチームの活動報告、第三期に向けた方向性の確認。

６．海ごみ・プラスチックゴミクリーンアップ活動の実施

指標活用 PT による海ゴミ清掃活動データ情報収集のサポート。会員の清掃活動協力等支援。

７．プロジェクトチームの活動

PT ごとに成果及び今後の課題を検討。第二期計画の終了にともなう総括および活動のミッション等の見直しを図った。

８．東京湾大感謝祭 2022 リアルイベントの開催

東京湾大感謝祭 2022 は、10 月 1 日～10 月 30 日の期間オンラインにより実施。また、10 月１５日（土）・１６日（日）には、横浜港大さん橋ホール会場にて３年ぶりの入場者を迎えての開催を実施した。

９．会員関連団体などの事業との東京湾再生官民連携フォーラムの協力、後援・協賛等の実施

10．東京湾の日・10 月 1 日 PR 活動

Ⅲ．事業実施経過と成果

1．一般財団法人セブン-イレブン記念財団との基本協定書

2022 年度～2024 年度協定書の締結。3 年間の協力を定めた。

2．東京湾再生のための行動計画（第三期）にむけての活動

2-1．東京湾再生のための行動計画（第三期）への意見集約

令和３年度末に「東京湾再生のための行動計画（第三期)）に向けての政策提案を提出した。東京湾再生推進会議の作成する次期行動計画に引き続き協力すべく、企画運営委員・会員等への意見照会を行い、令和 5 年度から始まる第三期の活動に向けての意見集約を図った。

2-2．プロジェクトチーム活動の総括

〈PT 長会議 4.11 の実施〉

フォーラム活動 10 年の総括と次期に向けた改善等の検討・議論が行われた。プロジェクトチーム長よりさまざまな意見が寄せられ、ミッションが終了したチームはいったん見直しを図るなど、PT ごとにその成果と今後の活動についての検討が行われた。

< PT 長ヒアリングの実施およびミッション終了について>

6 月～7 月にかけて、事務局からの PT 長への個別ヒアリングを実施した。フォーラム事務局では、PT 長会議の意見を踏まえ、個々の特徴的な活動を勘案して、PT 長個別にヒアリングを実施し、第二期の活動に対する成果や積み残し、第三期に向けての課題や抱負について、ご意見を伺った。その結果、新たな装いで新規出発したいという PT・継続して活動をしたいという PT・活動を終了する意向の PT など、PT ごとに様々な意向があることが分かった。

設置要綱では「ＰＴは、ミッションを終えた段階で、企画運営委員会の承認を得て、閉会・解散する。」と決めている。現在、期限や期間を決めての活動をしている PT はない。第三期への移行のタイミングで、既に政策提案の実施など一区切りのミッションを終了した PT や諸事情で活動が滞っている PT は、活動終了の意向を企画運営委員会に表明し、第 2 回企画運営委員会において審議され解散が承認された。ミッション終了による解散が承認された PT は以下の通り。

ミッション終了 PT 一覧

ＰＴ名称	PT 長コメント（ヒアリング抜粋）	第三期にむけての活動意向
1 東京湾大感謝祭 PT	・感謝祭実行委員会は解散する。 (現行の実行委員会のやり方はやめる) ・感謝祭 PT は解散する。 ・第三期を迎え来期からは自治体を主催として、実施する運営体制にしていき、旧感謝祭 PT メンバーは、ノウハウを提供するなど応援協力を行う。	ミッション終了 （事務局による啓蒙・広報活動の体制の見直しを行う。）
2 浅瀬再生実験 PT	・直角護岸から傾斜護岸への改善取組の気持ちは、今でも変わらないが、今の状況下では、残念だが PT 活動は無理と判断している。 ・今と違った状況ができれば、PT を再立上げしたい。	ミッション終了
3 東京湾パブリック・アクセス方策検討 PT	政策提案を 2 度実施し、役割は果たしてきた。	ミッション終了
4 東京湾での海水浴復活の方策検討 PT	政策提案の実施、実質的な運営がすでに行われている。もっと幅広い・俯瞰的視点で考えたい。	ミッション終了

2-3. 冊子「東京湾への未来 2013-2032」の発行

2013 年からの 10 年間の活動まとめと今後 10 年間につての想いを記録した冊子を発行した。冊子「東京湾への未来 2013-2032」は、東京湾再生官民連携フォーラム活動の記録誌となるもので、今までの活動成果、活動課題、解決のための努力、今後の 10 年間を見据えた東京湾の未来についての検討・議論を記録し、次世代に引き継ぐ今後の参考資料として発行した。2023 年 3 月発行。

・・・・・・・・・・・・・目　次・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

本　編

第１章　東京湾リレーションシップ

1.1 東京湾再生官民連携フォーラム出航準備「提案か、提言か」言葉選びの激論

東京湾再生官民連携フォーラム企画運営委員会・委員 田久保　雅己／株式会社舵社・編集長

1.2 壮大な実験・新しい組織モデルの誕生―「設立総会でのあいさつ」
東京湾再生官民連携フォーラム　議長　來生　新
1.3 東京湾再生官民連携フォーラムスタート―設立総会＆東京湾大感謝祭―事務局
第 2 章　東京湾の再生仲間・プロジェクトチームのチャレンジ活動
2.1「観測するだけがモニタリングじゃない！歌って踊れる PT を目指して」
東京湾環境モニタリングの推進 PT 長 古川 恵太/海辺つくり研究会、理事長
2.2 楽しい活動でアイデアを，皆の協働で豊かな海を，未来へ
生き物生息場つくり PT 長　佐々木 淳/東京大学大学院新領域創成科学研究科教授
2.3－東京湾の再生の状況がいろんな面からわかる指標の設定と情報収集－
東京湾再生のための行動計画の指標の活用 PT 長　岡田 知也/
国土技術政策総合研究所　沿岸海洋・防災研究部　海洋環境研究室長
2.4 東京湾大感謝祭の 10 年をふりかえる
東京湾大感謝祭ＰＴ長　木村 尚/NPO 海辺つくり研究会　理事
2.5 東京湾の環境を考えたライフスタイルへの変化で、エコでおいしい江戸前を目指したい！
江戸前ブランド育成 PT 長　牧野 光琢/東京大学大気海洋研究所　教授
2.6 パブリック・アクセス
東京湾パブリック・アクセス方策検討 PT 長　竹口　秀夫/ＮＰＯ横浜創造まちづくり学会会長
2.7 次世代の子供達のために、約 50 年ぶりに東京内湾での海水浴を復活させました
東京湾での海水浴復活の検討方策検討 PT 長　関口　雄三/ふるさと東京を考える実行委員会 理事長
2.8 東京湾の窓プロジェクトチーム　～1 から始めた挑戦～
東京湾の窓 PT 長 芝原 達也/NPO 法人生態教育センター
2.9 カニカニパラダイスは人にとってもパラダイス！？～
多摩川河口干潟ワイズユース PT 長 竹山 佳奈/多摩川河口生物多様性研究会　会長
2.10 浅瀬再生実験 PT 見学会…事務局　/　東京湾の干潟・浅場
第 3 章　横浜赤レンガ倉庫広場/横浜港大さん橋ホールエピソード
3.1 新しいステージに立ちはだかった数々の難関　東京湾大感謝祭、横浜赤レンガ倉庫で開催
東京湾大感謝祭実行委員会・委員長　田久保 雅己/株式会社舵社・編集長
3.2 感謝祭 ある前夜の出来事　　株式会社スリービー　代表取締役　三橋 和也
3.3　東京湾大感謝祭２０２２親子体験記　　東京湾再生官民連携フォーラム会員　瀬之上 恭子
第 4 章　フォーラム、なに？
4.1 浦安三番瀬から見るフォーラム活動
東京湾再生官民連携フォーラム会員 東京湾の窓 PT 浦安三番瀬を大切にする会　事務局長　横山 清美
4.2 東京湾再生官民連携フォーラムって、けっきょく何なの？

東京湾再生官民連携フォーラム会員　ふなばし三番瀬環境学習館　小澤　鷹弥
第 5 章　東京湾の未来～チャレンジ活動
5.1 東京湾の未来へ 東京湾再生官民連携フォーラム　議長　來生　新
5.2 東京湾の水環境の 10 年間の変化
東京湾再生のための行動計画の指標の活用 PT 長　岡田　知也/
国土技術政策総合研究所　沿岸海洋・防災 研究部　海洋環境研究室長
5.3 10 年後の東京湾に期待すること-そのために今すべきこと
東京湾環境モニタリングの推進 PT 長 古川 恵太/海辺つくり研究会、理事長
5.4 東京湾の再生・10 年の意識変化 そして 10 年後
東京湾再生官民連携フォーラム会員/海に学ぶ体験活動協議会　理事　池上　正春
記 録 編
第 6 章　熱い議論による設立構想の始まり
6.1 東京湾再生官民連携フォーラム設立への道のり
国土交通省近畿地方整備局 港湾空港企画官　戸谷 洋子
第 7 章　フォーラム 3 点セットこころざし、設置要綱、運営ルール
7.1　東京湾再生官民連携フォーラム設立のこころざし
7.2　東京湾再生官民連携フォーラム　設置要綱
7.3　フォーラムの運営ルール
第 8 章　政策提案のはじまり…東京湾再生官民連携フォーラム
8.1 政策提案初めての手交
8.2　政策提案の実績
8.3 新たな指標に関する提案
8.4 マコガレイの産卵場を再生するため等の「生き物生息場つくりに関する提案
8.5 東京湾パブリック・アクセス方策に関する第一次政策提案
8.6 東京湾奥での海水浴復活のための第一次政策提案
8.7 東京湾の再生に向けたパブリック・アクセス方策に関する政策提案
8.8 未来の東京湾と人のつながりの再構築に向けた東京湾の窓施設のネットワーク推進に関する政策提案
8.9 第三期に向けた東京湾再生計画へのいくつかの政策提案
第 9 章 東京湾の活動と PR
9.1 東京湾再生官民連携フォーラム会員
9.2 東京湾の PR (1) 東京湾の日・10 月 1 日 PR 活動
東京湾の PR (2) 東京湾再生アンバサダー
9.3 東京湾をめぐる(3)ぐるっと東京湾スタンプラリー
9.4 東京湾の交流 CSR-NPO 未来交流会

9.5 赤城乳業の脱炭素活動

PR 誌面

表２　東亜建設工業株式会社

表３　東洋建設株式会社

中面　五洋建設株式会社

中面　日本海工株式会社

表４　東京湾再生アンバサダー

赤城乳業・ガリガリ君は、東京湾の魅力を伝える東京湾再生官民連携フォーラム東京湾再生アンバサダーです。

関連ページ p154

・・・

講演－3	命を育むみなとのブルーインフラ 拡大プロジェクト	国土交通省 港湾局 海洋・環境課 港湾環境政策室 室長 青山 紘悦 氏
Ⅱ部 事例・ 情報交流	① 事例 東京湾 UMI プロジェクトとは ② 事例マルハニチログループにおける東京湾 UMI プロジェクトの取組み ③ 意見交換 質問等 事務局 アンケートの実施 ④ 30by30 アライアンス参加について	①国土交通省 関東地方整備局 港湾空港部事業継続計画官 岡島 達男 氏 ②マルハニチロ㈱ 経営企画部 サステナビリティ推進グループ 主任 志村 遥夏 ④東京湾再生官民連携フォーラム議長 來生 新 氏

3.2 「10 月 1 日・東京湾の日」 第 2 回 川柳&photo コンテストの実施

より多くの方に「東京湾の日」を知っていただくきっかけ作りに、川柳&photo コンテストの公募を実施した。多くの応募作品が寄せられた。川柳部門の大賞にキッズ部門を新たに設けた。

10 月 1 日はトウ（10）ワン（1）「東京湾の日」。多くの皆様に、東京湾の大切さを知ってもらうことを目的に、東京湾をテーマにした「川柳と photo コンテスト」を開催した。8 月 31 日に応募が締め切られ、厳正な審査の上、下記の通り審査結果を選出した。

【コンテストの概要・川柳部門】

・イベント名：「10 月 1 日は東京湾の日」 第 2 回 川柳&photo コンテスト 川柳部門
・主 催 ：東京湾再生官民連携フォーラム
・募集期間 ：令和 4 年 6 月 1 日～8 月 31 日
・公募方法 ：ホームページ、SNS およびポスター、チラシ配布
・応募総数 ：549 点
・審査員

審査委員長：稲田 眸子（いなだ・ぼうし）／あらくさ句会指導講師/
平成 9 年、俳誌「少年」を創刊･主宰
審査委員 ：來生 新 東京湾再生官民連携フォーラム企画委員 議長
審査委員 ：大浦 佳代 東京湾再生官民連携フォーラム 監事
二次選考審査委員 ：東京湾再生官民連携フォーラム企画運営委員

・表彰式：10 月 1 日（土） 第 10 回通常総会において大賞者の表彰
・稲田審査委員長 選評 フォーラム HP にて公表

東京湾の日・大賞 1 名、キッズ大賞 1 名 他 秀作、佳作を選出した。

〇東京湾の日　川柳

<大賞>　一般部門

時価で食う 江戸前寿司で 肝試し　　前原 崇（まえはら たかし）栃木県

キッズ部門

カニの掘る 穴に落ちてる うちのパパ　　石塚 海都（いしづか かいと）千葉県

<秀 作>

アナゴ見て ウミヘビ出たと 騒ぐ孫　　井上 靖（いのうえ やすし）神奈川県

キスはなし 江戸前寿司と 初デート　　前原 道子（まえはら みちこ）栃木県

スカイツリー 釣竿にして 鯨釣る　　高野 信夫（たかの のぶお）　栃木県

<佳作>

江戸前の ネオン育ちの ネタ泳ぐ　　岸野 孝彦（きしの たかひこ）兵庫県

アジ釣って 刺身とフライの 二刀流　　澤田 典子（さわだ のりこ）　徳島県

江戸前は 何故廻らぬと 拗ねる孫　　平岡 清嗣（ひらおか きよし）大阪府

草食の 彼を魚食に する穴子　　梅山 すみ江（うめやま すみえ）神奈川県

アマモ場や 東京湾の ゆりかごに　　新井 由利菜（あらい ゆりな）東京都

【コンテストの概要・photo 部門】

・イベント名：「10 月 1 日は東京湾の日」 第 2 回　川柳&photo コンテスト　photo 部門

・主　　催：東京湾再生官民連携フォーラム

・募集期間：令和 4 年 6 月 1 日～8 月 31 日

・公募方法：ホームページ、SNS およびポスター、チラシ配布

・応募総数：39 点

・審査基準：「10 月 1 日は東京湾の日」をイメージする誰にでも分かりやすい構図、東京湾を美しく豊かな海へ再生することや、持続可能な海洋環境保護活動の必要性を感じる写真などを基準に選考。

・表彰式：東京湾再生官民連携フォーラム　第 10 回通常総会において大賞者の表彰

・審査員

審査委員長：田久保雅己　東京湾再生官民連携フォーラム企画運営委員、東京湾大感謝祭実行委員会委員長／株式会社舵社 編集長

審査委員：　木村尚　東京湾再生官民連携フォーラム企画運営委員、東京湾大感謝祭 PT 長／NPO 法人海辺つくり研究所事務局長

審査委員：　岡島達男　国土交通省関東地方整備局 港湾空港部　事業継続計画官

〇東京湾の日　Photo

<大賞>

場　所　：　千葉 富津干潟

お題心情： お題「富津干潟のアマモ場」～撮影者心情「いつ訪れても広大で美しいアマモ場とそこに生息する生き物たちに出会える富津干潟は、とても楽しいところです。」

撮影者 ： 末岡 一男（すえおか かずお）

＜審査員講評＞

・田久保審査委員長：

「空と海の中を一望して、アマモ場の美しさを表現した優れた作品です。水中のアマモ、青い空、遠くに浮かぶ白い雲、全体の構図も素晴らしい。」

・木村審査員：

「画かくが狭いので、波があると、このタイミングの撮影は大変だったと思います。関東最大のアマモ場、生物の多様性上も、ブルーカーボンの視点からも重要ですね。みんなで大切にしていきたい場所です。」

・岡島審査員：

「富津干潟のアマモ場の水中の状況と青い空と白い雲と、アマモ場を解説する断面図のような面白い構図だと思いました。でも色もきれいで、写真としてもいいと思います。」

<佳作>

タイトル	撮影場所	受賞者
「トビハゼ赤ちゃんとの出会い」	（東京 江戸川放水路）	石川 新（いしかわ あらた）
「狙いを澄まして」	（葛西臨海公園）	石川 新（いしかわ あらた）
「夕暮れの漁港と富士山」	（千葉 木更津金田）	末岡 一男（すえおか かずお）

3-3.東京湾大感謝祭 2022 リアル開催に伴うサポート支援の実施

東京湾大感謝祭 2022 は、会場を横浜赤レンガ倉庫広場から横浜港大さん橋に主会場を移して、入場者を迎えての開催を実施した。月一度の実行委員会開催のサポートを行うとともに、再生推進計画

のアピールポイントなどで活動するフォーラム会員の活動展示等を応援した。また、今年度をもって現行の体制を終了するにあたり、そのフォローをフォーラム事務局が行ってきた。

3-4. ＰＴ連携の推進

(1) 浦安三番瀬を大切にする会主催、浦安市共催する「市民大学公開講座」を東京湾再生官民連携フォーラムが後援した。2 回に分けた市民講座となっている。

2023 年 1 月 29 日(日)開催「江戸前講座～江戸前ってなあに？」

2023 年 2 月 19 日(日)開催「江戸前フォーラム～江戸前の海を伝える」

(2)東京湾窓 PT のアウトリーチ活動・交流支援

Facebook「ぐるっと東京湾！自然と魅力のワクワク情報」について

参加サイト　https://www.facebook.com/groups/tokyowaninfo の紹介

主　催：東京湾の窓 プロジェクトチーム

後援協力：東京湾再生官民連フォーラム（助成：一般財団法人みなと総合研究財団）

公開グループメンバー369 人による参加情報共有

＜Facebook ページの活動主旨＞

東京湾沿岸の様々な学習施設やスタッフ、関係者から東京湾の自然や歴史などの魅力情報が集まる。ここで紹介されるいろいろな情報が共有されることで、東京湾の魅力が多くの人が伝わり、東京湾好きな人が増えることを願っている。

運営は、東京湾官民連携フォーラム内の東京湾の窓プロジェクトチームが行っている。

3.5 交流参加活動

（１）一般財団法人セブン-イレブン記念財団主催のウェブセミナーに参加

(一財)セブン-イレブン記念財団は、2022 年 9 月 10 日に「生物多様性×市民活動のミライ」をテーマにして Web セミナーを開催、同時に助成金の合同説明会を開催した。

日　時：2022 年 9 月 10 日（土）10：00～12：30

・ZOOM:ウェビナー

・参加費：無料

・内　容：生物多様性×市民活動のミライ

①基調講演「今求められる『自然に根ざした社会課題の解決策』」

講師　公益財団法人 日本自然保護協会　OECM タスクフォース室長 高川晋一氏

＜講演概要＞

転換期を迎える「市民による自然保護」

自然に根差した社会課題の解決策

直近の重要キーワード

②事例紹介「自然科学の力と夢を育てる担い手育成事業」

講師　やまがたヤマネ研究会 代表 中村夢奈氏

<講演概要>

活動内容

ネイチャースペシャリストクラブ(子供向け環境教育プログラム)

プログラムに対してどのように助成金を活用してきたか

③助成制度説明会

TOTO 株式会社「TOTO 水環境基金」

独立行政法人 環境再生保全機構「地球環境基金」

公益財団法人 コメリ緑育成財団「コメリ緑資金」

一般財団法人 セブン-イレブン記念財団「環境市民活動助成」

（２）2022 年度シンポジウム－2030 生物多様性枠組実現日本会議(Ｊ－ＧＢＦ)との共催－、企業とＮＧＯ等との交流会兼生物多様性に関するビジネスマッチングに参加

コロナ対応により控えていた経団連自然保護協議会によるシンポジウム及び交流会が、4 年振りに再開され、参加交流を図った。自然共生社会とともに脱炭素社会を目指して、2030 年までにそれぞれの分野において目標達成にため NGO や企業の方々のプレゼンが行われ交流が図られた。

１．開催日時　令和４年３月９日(木)　 13：30-17：00

２．開催場所　経団連会館（千代田区大手町 1-3-2）

シンポジウムの様子

交流会

交流会パネル展示

４．東京湾再生官民連携フォーラム　企画運営委員会の開催

〇令和４年度　第１回企画運営委員会

１．開催日時　令和４年５月 26 日(木)　 13：30-15：00

２．開催場所　Zoom 利用による会議

事務局運営　みなと総研会議室　３Ｆ

東京都港区虎ノ門 3-1-10 第２虎の門電気ビルディング

３．議事次第

«審議事項»

（１）令和３年度事業報告（案）、決算（案）及び監査結果について

«報告事項»

（１）東京湾再生推進会議　次期行動計画の方針等について

（２）ＰＴ活動報告

（３）フォーラム監事監査指摘事項報告

（４）PT 長会議について

（５）東京湾の日　第２回川柳＆photo コンテスト募集について

（６）冊子発行　（仮称）東京湾の未来について

（７）その他

«審議結果»

令和３年度事業報告（案）、決算（案）は承認された。

〇令和４年度　第２回企画運営委員会

１．開催日時　令和４年９月 21 日(水)　 15：30-17：00

２．開催場所　AP 虎の門　11F 会議室　　Aルーム　 Zoom 併用会議

東京都港区西新橋 1-6-15 NS 虎ノ門ビル（日本酒造虎ノ門ビル）3F

３．議事次第

«審議事項»

（１）審議１　東京湾再生のための行動計画（第三期）に向けて各 PT 活動の終了/継続の意向提示について

（２）審議２　令和４年度総会議事次第（案）

（３）審議３〝東京湾の未来へ 2013-2032〟発行に伴う 広告寄附ページ設定（案）について

«報告事項»

（１）第二期のとりまとめ

（２）次期計画についての進捗等

（３）ＰＴ活動報告

（４）東京湾の日　第２回川柳＆photo コンテストについて

（５）冊子発行　〝東京湾の未来 2013-2032〟企画・編集について

（６）その他

«審議結果»

（１）審議１「 東京湾再生のための行動計画（第三期）に向けて各 PT 活動の終了/継続の意向提示について」 は承認された。

（２）審議２「令和４年度総会議事次第（案）」は承認された。

（３）審議３「冊子発行 東京湾の未来 2013-2032 の広告募集について」は承認された。

〇令和４年度　第３回企画運営委員会

１．開催日時　令和５年２月 22 日（水）　13:30-15:00

２．開催場所　Zoom 利用による会議　（一部会議室参加）

事務局　みなと総研　会議室３Ｆ

３．議事次第

«審議事項»

（１）フォーラム令和５年度事業計画・予算（案）

（２）令和５年度フォーラム第 11 回通常総会開催（案）について

（３）設置要綱の改定（案）について

（４）フォーラムの広報・普及活動の強化について

広報・普及に関する二つのチームの新設の提案

（５）PT の新設について（略称・指標 PT）

東京湾再生のための行動計画（第三期）の指標検討ＰＴ

«報告事項»

（１）ＰＴ終了届けについて

（２）ＰＴ活動報告

（３）フォーラム令和４年度事業報告（案）について

（４）CSR-NPO 未来交流会 2023 のご案内

（５）フォーラム　冊子〝東京湾の未來へ 2013-2032〟の進捗状況について

（６）その他　経団連自然保護協議会 2022 年度シンポジウム・企業とＮＧＯとの交流会参加について

«審議結果»

（１）審議１　フォーラム令和５年度事業計画・予算（案）は承認された

（２）審議２　令和５年度フォーラム第 11 回通常総会開催（案）については、承認された。

（３）設置要綱の改定（案）について、承認された。

※ただし、「2 年後（令和 7 年 2 月）に、第 22 条の「できる規定」を見直す。」こととする。

（令和 5 年度第 3 回企画運営委員会の議事録に記録して残す。）

（4）フォーラムの広報・普及活動の強化については承認された。

・東京湾再生・感謝祭デザインチーム　山縣チーム長を企画運営委員に委嘱する。

フォーラムの広報・普及活動の強化のため二つのチームの新設。

1. 広報コミュニケーションチーム　チーム長　來生 新

目的：東京湾再生官民連携フォーラムの全体にわたる広報活動のこれからのあり方の検討。

2．東京湾再生・感謝祭デザインチーム　チーム長　山縣 宣彦

目的：東京湾大感謝祭 2023,20244 の実施

（5）PT の新設について（略称・指標 PT）は、承認された。

指標活用 PT を解散し、新しくメンバーを募り、指標 PT を開始する。

5．東京湾再生官民連携フォーラム　令和 4 年度第 10 回通常総会の開催

東京湾再生官民連携フォーラムは、10 月 1 日（土）10：30～12：30web コミュニケーションツール Zoom を利用した通常総会を開催した。 第 10 回通常総会は、議題の採択が行われ、承認された議事次第に沿い、各事項に関して報告が行われた。 総会議長役には フォーラム來生議長が選出され、議事進行が行われた。議事録著名人は、池上正春様、田中ゆう子様が選出された。報告議題は、企画運営委員会で承認された「令和 3 年度活動報告及び令和 4 年度活動計画」 の説明が行われ、続いて、東京湾再生推進会議（海上保安庁幹事役）から「「東京湾再生のための行動計画（第二期）」プレ評価概要」「東京湾再生のための行動計画（第三期）骨子」の説明が行われた。

総会運営会場（みなと総研会議室 3 F）

今年度は第二期の終了、来年度は第三期への移行と大きな転換期を迎えている。この中で、第二期においてはフォーラムの活動が評価された。フォーラムからは「第三期に向けた東京湾再生計画へのいくつかの政策提案」が行われ、第三期の基本計画には提案した内容が検討されている。

多様な PT 活動が各 PT 長から報告され、コロナの影響を受けながらも PT 活動に工夫を行い実施してきたことが伺え、着実な活動を知ることができた。事務局から 10 年間のフォーラム活動の記録誌となる〝東京湾の未来へ 2013-2032〟発行について報告があり、東京湾の日の意識啓発として「東京湾の日・第 2 回川柳&phot コンテスト」の結果が報告された。同時に、コンテスト大賞受賞者の表彰を行った。

<議長挨拶>・・・

本年の総会は、第 10 回の総会でございます。少し古い記録を確かめましたところ、2013 年の 11 月 23 日に第一回の総会が開催され、そこで私がフォーラムの議長として選出されるのに先立って、企画運営委員会議長としてご挨拶をいたしました。
その時に申し上げましたことのポイントは、次のようなことでありました。

当時、東京湾には依然として様々な環境の問題があり、青潮の問題や干潟再生・保全等々に加えて、7年後には東京オリンピックの開催が予定されており、東京湾を利用しての様々なオリンピック関連の活動が行われることそうした中で、今までのような官のみ民のみの活動を超えて両者連携し、官民一体となっての課題解決活動は、これだけの広大な海域を対象とするものとしては、わが国のみならず世界的に見てもかつて経験をしたことのない新たな試みであること、

あえて言えば、21 世紀の日本社会の在り方についての壮大な実験となる可能性を秘めた活動になりうると考えられること、その中で、「官」と「民」という全く性質の異なる、しかもそれぞれにおいて多様な主体が東京湾の再生のために、果たして連携が可能かどうか、そのために何が必要なのか。

このような問いに、この組織の出発の時点で、私なりに考えた答えは次のようなことでした。

官と民はそもそもの存在の根本をなす原理が異なること、しかし、官といっても国、国の各省庁、都県レベルの地方公共団体、市レベルの地方公共団体、みな異なる行動原理を持つこと、同様に、民といっても、製造業、漁業、海運業、大企業、中小企業、NPO, 個人、個々の企業等で、それぞれの行動原理がみな違う。すなわち行動原理の違いは「官」だから、「民」だからという以上に、それぞれの中でもみな違う。

そのような認識の中で、異なる行動原理を持つ多様な主体が共同するために必要なことは、それぞれが自己の論理を超えた異質の論理と対峙し、それを相互に認め合い、可能な場合には、自らに内在しないもので摂取可能なものを、それぞれの固有の論理に取り入れる努力をすること、

それがそれぞれの組織の自己革新をもたらす可能性である、と信ずることが私たちすべてにとって重要な価値であり、それこそが従来の枠を超えた官民連携の意義であり、それによって私たちの活動が 21 世紀中葉に向けての新しい日本社会の姿を作る礎となりうるのだということでした。

あれから早くも 10 年の時が過ぎようとしています。この間、この組織の活動を支えてくださった皆様のご努力、ご尽力によって、出発の時点で心配した空中分解という事態に陥ることなく、セブンイレブン記念財団様の寛容の精神にあふれた資金援助もあり、それなりに実績を積み重ねてくることができたのではないか、と議長として甘い自己評価をしております。

改めまして、この 10 年の活動に直接、間接に携わり、フォーラムを支えてくださいま

したフォーラムの全会員、「官」、「民」それぞれの皆様、事務局を含むすべてのみな様に心から御礼を申し上げます。ありがとうございました。

ここで、過去からこれからの 10 年に目を向けてみると、まさに 10 年はひと昔といわれるように、これまでとは東京湾を取り巻く自然環境、社会環境も大きく変わろうとしており、本日の総会はフォーラムにとって、過去の総括をして、新たな活動への第一歩を踏み出す足固めとなる、大切な総会でございます。

後に報告事項でご報告をいただくように、東京湾再生推進会議による「東京湾再生のための行動計画（第二期）」が終わりつつあり、その評価を踏まえて、第三期の計画がいろいろと議論をされる現在進行形で事態が進みつつあります。

フォーラムとしてもすでに本年 3 月に再生推進会議に対して、第三期に向けたいくつかの政策提案をさせていただいており、今後も、さまざまな形で第三期計画の取りまとめにコミットさせていただく努力をしたいと思っております。

東京湾の再生という目標の実現のために、官と民をつなぐ唯一の組織として、フォーラムがまさに今できることを、一方で全力を尽くして実行するということであります。

しかし、10 年を一区切りとして、これまであまり過去を振り返ることをせず、将来展望を明示することをしてこなかったフォーラム自身が、自らの活動を今後の 10 年に向けてどう整理するべきか、それが本日の何よりも重要な総会全体を貫くテーマでございます。

来年度、フォーラムとしての新たな 10 年を始めるために、これまでの活動をどのように自己点検し、評価し、フォーラムの姿を考えるべきか。

具体的な議事次第との関係では、報告事項の 3 番目、各 PT 活動の終了/継続についてが、フォーラムの今後にかかわる問題でございます。

先日の企画運営委員会で議論をしたことの報告という形式をとっておりますが、会員の皆様にはぜひ、積極的なご意見をいただきたいと考えております。

今の時点で、今年度に入ってから企画運営委員会等の議論を前提に、議長としてフォーラムの次の段階のために、私が考えておりますことは、政策提言と東京湾の啓もう・広報活動という、フォーラム活動の 2 本の柱は維持しつつ、PT 活動の具体的内容や、フォーラムのより安定的で持続可能な活動のために、その具体的な内容を着実に見直して、時代の流れに沿ったものとしていくことが、本年度フォーラムにとって大事な課題ではないか、ということであります。

10 年前の発足の初心に立ち返り、今後の 10 年を見据えて、記念すべき第 10 回通常総会の開会に先立ち、ご挨拶をさせていただきました。本日の総会、皆様の活発なご議論をいただけることを期待しております。どうもありがとうございました。

::::::

日　時：令和４年 10 月１日（土）　10：30～12：25

会　場：Zoom によるリモート総会、一部運営会場参加

（運営会場事務局：みなと総研　3F 会議室）

出席者：出席者 39(団体・個人)、委任状提出者 36(団体・個人)議事次第

１．開会

２．議長挨拶

東京湾再生官民連携フォーラム議長　來生　新

３．議事

（１）総会議長選出

（２）議題の採択　第一号議案

（３）議事録署名人の選出

（４）報告議題

(4)-１　令和３年度活動報告及び令和４年度活動計画

①　令和３年度事業報告及び決算報告について

②　令和４年度事業計画及び予算について

(4)-２　プロジェクトチームの活動報告について

（５）審議議題

議題の採択

（６）報告事項

(6)-1　「東京湾再生のための行動計画（第二期）」プレ評価概要

東京湾再生のための行動計画（第三期）骨子

(6)-2　令和４年３月４日フォーラムから再生推進会議へ政策提案の提出

「第三期に向けた東京湾再生計画へのいくつかの政策提案」

(6)-3　東京湾再生のための行動計画（第三期）に向けて各 PT 活動の終了/継続について

(6)-4　〝東京湾の未来へ 2013-2032〟発行について

(6)-5　「東京湾の日・第１回川柳&photo コンテスト」について結果および第２回川柳&photo コンテスト結果・表彰式

４．閉会

６．海ごみ・プラスチックゴミクリーンアップ活動の実施

○　クリーンアップ活動を実施している会員の支援を図る。昨年度に引き続き、ＤＥＸＴＥ－Ｋ（ディクテック）主催（西なぎさ発：東京里海エイド）の清掃活動への後援、NPO 法人　江戸川エコセンターとの協力などの実施。

7. プロジェクトチーム（PT）の活動

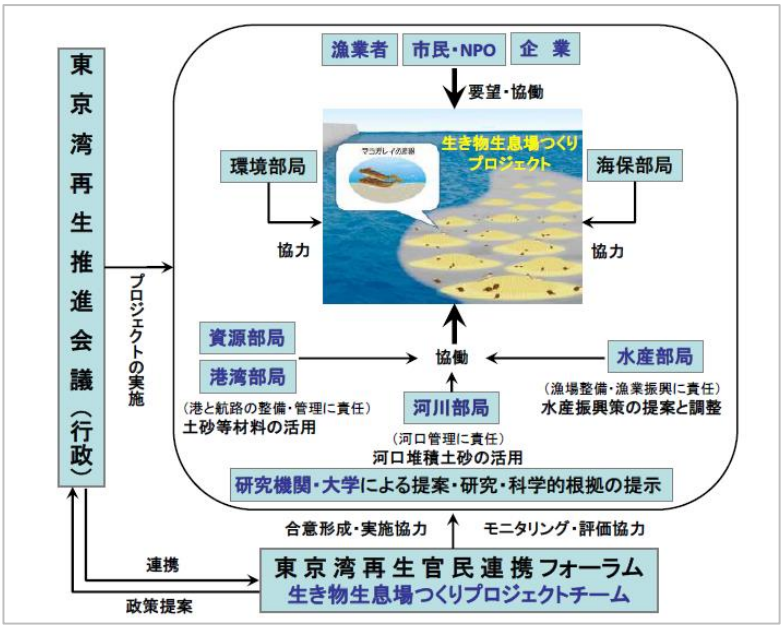
各 PT では、コロナ対応により計画を変更しながら、継続的に活動を行ってきた。

1）生き物生息場つくりＰＴ：（佐々木 PT 長）

生き物生息場つくり PT のミッションと活動を、第二期の最後ということで整理している。「生態系サービスの強化に資する生き物生息場つくりの提案と社会実装の取り組み」を、「科学的かつ持続的な活動で推進する」ということをミッションとして行ってきた。

「国や自治体のひとつの部局では実現が困難なプロジェクトの発掘」、「市民・企業からの提案の発掘」、「企業・資源部局等の資源の活用」などの検討により「江戸前の再興、貴重な生態系の再生・創出、憩いの場・水辺環境の創出、ブルーカーボンの振興、気候変動適応への貢献」など、に繋がる活動ができればいいと考えている。

科学的知見や理念の共有、モニタリング・研究の実施と活動の継続、行政との協働、公的研究機関・大学等による科学的知見の提供とモニタリング、次世代へ引継いでいくことも大事と思っている。次に示す図は今後の横断的な活動展開の関係性を示している。



<現地調査活動>

2022 年 5 月 30 日　東京湾東岸旧海岸線水路干潟群の見学会（再生目標生物 WG）

2022 年 12 月 27 日（火）マコガレイ産卵場調査

2023 年 3 月 26 日（日）マコガレイ釣り調査

東京湾大感謝祭出展 パネル展示

新たな政策提案の検討など

2）東京湾再生のための行動計画の指標の活用ＰＴ：（岡田 PT 長）

指標活用 PT の前身は指標 PT であり、指標 PT は、東京湾再生のための行動計画（第二期）の指標として、多様な主体による東京湾再生に資する活動がより一層促　進できるように、多様な視点を考慮して 28 の指標を提案した。推進会議に採用され、二期はその指標に従って動いてい

る。

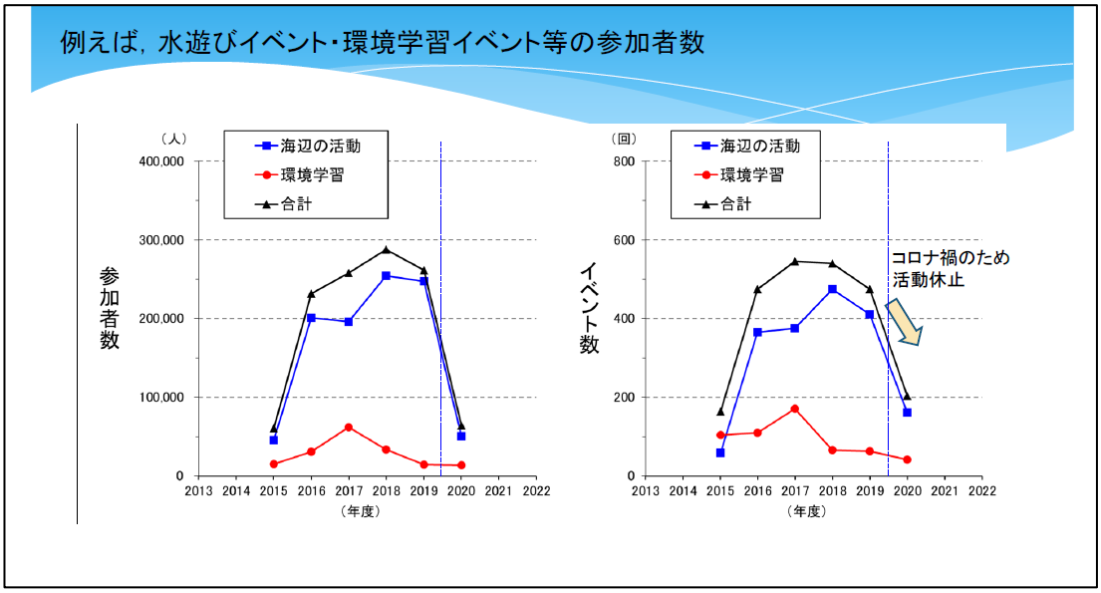
その指標群の中には、透明度、ＣＯＤ、ＤＯ濃度等の化学的な指標に加えて「ゴミ回収活動の参加者数等」や「水遊びや環境学習等のイベントの参加者数」など市民の活動・行動に関連する指標も含んでいる。

指標活用 PT は、多様な主体が効果的に新指標活用することをサポートし、東京湾再生のための行動計画（第二期）の全体目標が達成されるよう支援すること、をミッションとして活動している。

具体的には、二つのワーキンググループ（WG）に分かれて活動している。一つは、「市民データ収集 WG」もうひとつは、「データの整理・評価サポート WG」になる。市民データ WG の活動の事例としてゴミ回収活動指標の変化を紹介する。コロナ以前とコロナ後のグラフを示す。コロナ以前は徐々に増加し、コロナ後は急激な減少が見て取れる。2021 年の結果については、データを見る限り回復の兆しが見えてきている。

次の例として、「水遊びイベント・環境学習イベント等の参加者数」指標を取り上げるとこれもコロナ前後で大きな変化が起きている。2021 年の回復をデータ更新して見ていきたい。

もう一つのデータの整理・評価サポート WG は、現在，第二期最終評価に向けて，東京湾再生推進会議が各指標の評価結果を取りまとめ中で、当 PT では，評価手法や考察等について連携しサポートしている。



3）モニタリング推進ＰＴ：(古川 PT 長)

正式には「東京湾環境モニタリングの推進ＰＴ」と称する。

東京湾の現状を把握し、その変化傾向や変化機構を探ることが再生の礎となるという重要性に鑑み、東京湾再生推進会議（以下、推進会議）と協働し、モニタリングの実施及び成果についての普及、啓発を推進することをミッションとして活動している。

令和４年度の活動計画について

（1） ＰＴ会合

・ 適宜メールベースで意見交換・情報伝達、必要に応じて会合開催

（2）東京湾環境一斉調査

・ 東京湾再生推進会議モニタリング分科会と連携して実施（基準日：8/7、水質調査、生物調査、イベントも実施）

・ 生物調査についてのテコ入れ

調査結果を検討するワークショップを開催し、東京湾環境マップを作成している。

12 月 14 日（水）13 時 30 分から 15 時の「一斉調査ワークショップ」

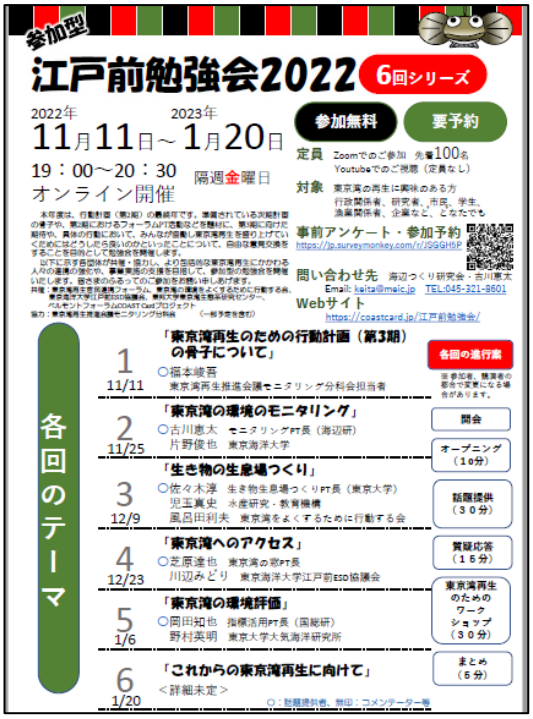
① ウナギ調査の追加実施（実施方法未定）

② 再生推進会議との連携強化：事前登録なしでも参加できるよう変更

・ ワークショップについては、2 回開催予定（マップ作成、生物調査振り返り）

（3） 江戸前勉強会の実施

連続ワークショップ「江戸前勉強会」を開催予定（10 月から 6 回予定）



（4）その他

・「アサリわくわく調査」の特別採捕許可について継続

4）東京湾大感謝祭ＰＴ：（木村 PT 長）

下記は東京湾大感謝祭 2022 のプログラム＆ポスターである。今年は 10/15.16 の二日間にわたって、横浜港大さん橋ホールでリアル開催が実現した。毎年、資金集め、出展社募集や会場面においても苦労している。実行委員はじめみなさんのご協力により何とか成立している。ステージではスペシャルトークをはじめさまざまなプログラムが組まれた。

プログラム

ポスター

〈東京湾大感謝祭 2022 概要〉

・会期：2022 年 10 月 15 日（土）～16 日（日）

・会場：横浜港大さん橋ホールおよび周辺海上（ピア象の鼻、赤レンガプロムナード、運河パーク）

※15 日（土）は 10：00～17：00、16 日（日）は 10：00～16：30

主 催：東京湾大感謝祭実行委員会

共 催：国土交通省関東地方整備局 横浜市 東京湾再生官民連携フォーラム

（一財）みなと総合研究財団 東京湾の環境をよくするために行動する会

横浜港ボート天国推進連絡協議会

特別協力：環境省

後 援：水産庁

天 候：2022 年 10 月 15 日（土）曇、16 日（日）晴

来場者数：6,572 名／2 日間 ■出展者数：全 56 社・団体／68 小間 ■協賛者数：4 社・団体

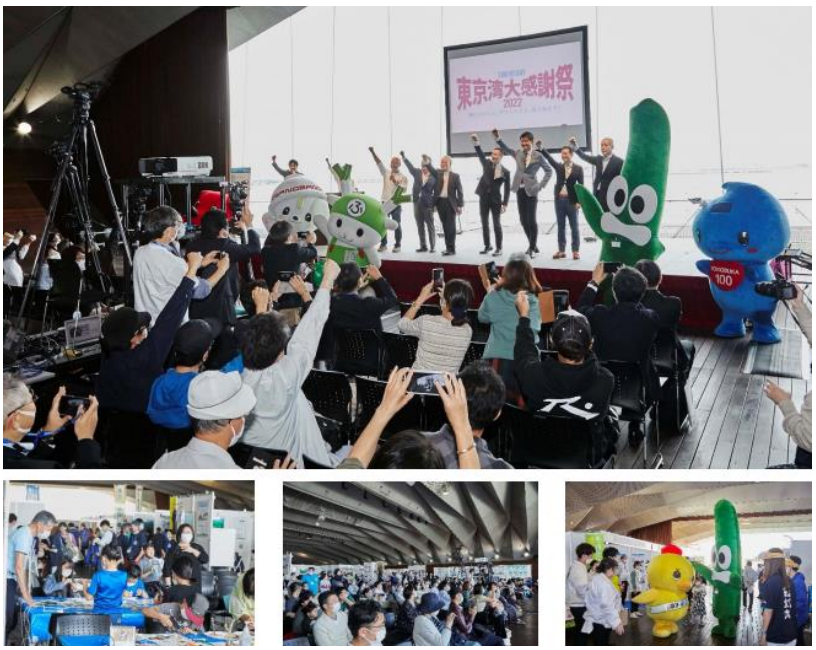
ステージ：全 10 プログラムを実施

主なプログラム：オープニングセレモニー、サイエンスコミュニケーション TOKYO BAY、官民トーク「東京湾の環境再生のこれまでとこれから」、東京湾で活躍する市民団体&PT トーク 「みなと SDGs パートナー登録制度」の紹介～我が国港湾の持続可能な発展を目指して～ 江戸前ってすごい！～ダイオウイカやホホジロザメも？～、 水の天使と考えよう！下水道と東京湾再生について

展示企画：全 3 企画を実施 江戸前の恵みコーナー、東京ワンダー下水道、東京湾で活躍する市民団体コーナー

海上イベント：全 3 プログラムを実施 清掃兼油回収船べいくりん特別公開、親子ハゼ釣り教室、ボート・ヨット体験乗船会

取 材：16 社（テレビ 3 社、ラジオ 2 社、新聞 4 社、雑誌 2 社、その他 5 社）



横浜港大さん橋ホール海側にあるステージ

5）江戸前ブランド育成ＰＴ：（牧野 PT 長）

活動方針は、市民の皆様に 東京湾の海の幸のことを知っていただき、食べていただく（イベント、体験など）ことを通して、東京湾の価値を知っていただくこと。今までの東京湾大感謝祭で実施してきた。ここ 2 年間はコロナの影響によりリモートの料理教室などデジタルデータのメニューに取り組んできた。江戸前 PT のデジタル資産共有ページを、大日本水産会魚食普及センターの協力により構築することができた。フォーラム HP からもバナーによるリンクがある。共有ページ

https://osakana.suisankai.or.jp/event/suisankai/7016

今年の大感謝祭 2022 では「江戸前の恵み」コーナーとステージイベント等を実施する。環境教育や食育等には人材育成が深く絡むので、この点についても、他 PT との横断的連携・協力もすすめたい。

6）東京湾パブリック・アクセス方策検討ＰＴ：（竹口 PT 長）

パブリック・アクセス方策検討 PT は、二度にわたる政策提案を行い、当初の目的であるミッションを終了し、今年度をもって解散する。

7）海水浴復活方策ＰＴ　（関口 PT 長）

海水浴復活方策 PT は、第二期終了をもって今回で終了となる。これまで政策提案を実施し、海水浴を定着させること、新しい海水浴場を開くことを目指している。定着については、①葛西海浜公園で実施し、②お台場の海水浴は、コロナやオリンピックの影響により三年ぶりに開催した。東京湾再生の第一歩と考えている。現場では浅草海苔養殖の復活や水質浄化活動などにも取

り組み、今後は「トータルな東京湾再生」という官民連携フォーラムとやり方が合致する形を見つけていきたいと思っている。

8）東京湾の窓ＰＴ（芝原 PT 長)

東京湾の魅力を伝える Facebook によるＳＮＳ情報の発信。東京湾大感謝祭 2022 への出展。今年度は、助成支援がないのでできる範囲で活動していく。

9）東京湾浅瀬再生実験ＰＴ（鈴木 PT 長)

ミッション終了に伴いＰＴ解散。

10）多摩川河口干潟ワイズユースＰＴ（竹山 PT 長）

今年度始まった PT で、三つの目的を持っている。スカイブリッジの開通によりさまざまな方が都心から訪れることもあり、一つは、多摩川河口干潟の生物多様性の継続的保全調査活動に取り組んでいく。鳥類、魚類、ベントス、水中昆虫、水質等について定期的な調査を実施して、保全活動を強化していくことを目標にしている。

二つ目は、地元住民、川崎側のキングスカイフロントに進出する大企業、ベンチャー企業の方々、空港からの観光客の方を対象にして、多摩川河口干潟の ESD、それらの企業の CSR 活動の一つとして、この場を使う活動をしていきたい。また家族、子供と研究者と触れ合う場や機会の提供活動の実施につなげる。

三番目は、大都市近郊の河口干潟における国際的な視野に立ったワイズユースについて企画や提案を行っていきたい。

PT のメンバーを募集しながら徐々に広げていく状態で、ベントス研究者と現地視察を 1 回行い、調査の形の検討を行っているところ。また河川事務所などと実施について協議をおこなっている。今後の予定として、調査ができるところから実施していきたい。さらに周辺に対する活動案内を実施していく。

令和４年度 プロジェクトチーム終了届け一覧

	PT 名称	PT 長コメント（ヒアリング抜粋）	第三期にむけての活動意向
1	感謝祭	・感謝祭実行委員会は解散する。 (現行の実行委員会のやり方はやめる) ・感謝祭 PT は解散する。 ・第三期を迎え来期からは自治体を主催として、実施する運営体制にしていき、旧感謝祭 PT メ	ミッション終了（事務局による啓蒙・広報活動の体制の見直しを行う。）

		ンバーは、ノウハウを提供するなど応援協力を行う。	
2	浅瀬再生実験	・直角護岸から傾斜護岸への改善取組の気持ちは、今でも変わらないが、今の状況下では、残念だが PT 活動は無理と判断している。 ・今と違った状況ができれば、PT を再立上げしたい。	ミッション終了
3	東京湾パブリック・アクセス方策検討	政策提案を 2 度実施し、役割は果たしてきた。	ミッション終了
4	東京湾での海水浴復活の方策検討 PT	政策提案の実施、実質的な運営がすでに行われている。 もっと幅広い・俯瞰的視点で考えたい。	ミッション終了
5	東京湾再生のための行動計画の指標の活用 PT	東京湾再生のための行動計画（第二期）が令和 4 年度で最終年度になったことに伴い，本 PT のミッション「東京湾再生官民連携フォーラムが提案した指標を，多様な主体が効果的に活用することをサポートし，東京湾再生のための行動計画（第二期）の全体目標が達成されることを支援する」が完了したため，本 PT を解散する.	ミッション終了

8．東京湾再生官民連携フォーラム 共催、後援、協力等の実施

(1) 東京湾の窓 PT スタンプラリーの代替

Facebook「ぐるっと東京湾！自然と魅力のワクワク情報」 共催

主　催：東京湾の窓プロジェクトチーム

(2) 第 22 回東京湾シンポジウム 2022～近年における東京湾の環境の変化～

10 年の東京湾の環境や生物の様子を見て、少し変だなと感じる事象・変わった点を、研究機関・

NPO・市民・漁業関係者、民間企業など多くの方々から情報提供して頂き、情報を集約・整理・情報共有する。

主　催：国土交通省 国土技術政策総合研究所　　後援：東京湾再生官民連携フォーラム

日　時：2022 年 10 月 13 日（木）　13 時 00 分～17 時 00 分（ウェブ配信あり）

場　所：横浜港大さん橋ホール

(3) ＤＥＸＴＥ－Ｋ（ディクテック）主催（西なぎさ発：東京里海エイド）への協力

定期的に実施している葛西臨海公園・西なぎさの漂着ごみ等の清掃活動への協力。

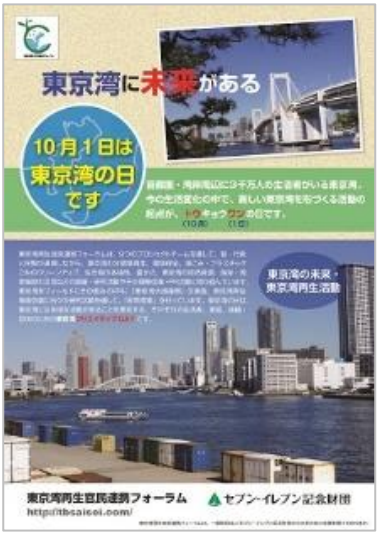
9．東京湾の日・10 月 1 日 PR 活動

東京湾大感謝祭と歩調を合わせて、みんなが東京湾を意識してもらう日「東京湾の日」10 月 1 日を設けた。この日を起点にしてまた締めくくりの日として、1 年間の活動の発表の場や連携活動してきた共通の日となるよう PR していく。

活動内容

・東京湾周辺に住んでいる、生活活動されている方々に向け、東京湾には多様な活動があることを見するそれぞれの生活者、組織・団体のための東京湾クリエイティブ DAY として、年に一度　東京湾に親しんでいただくための日。東京湾の未来を描く活動検討を行う。東京湾をテーマに川柳＆photo コンテストの公募を行い合わせて東京湾の日の PR を実施。

東京湾の日　ポスター⇒



10.　会員募集・広報活動

10.1　東京湾 News-Letter 配信

東京湾-News Letter は、会員への情報提供として実施している。令和 4 年 4 月 1 日～令和 5 年 3 月 31 日

◇資料－1　会員メール配信　東京湾 News Letter

件数	配信日	内　容
1	04.04	「令和 4 年度 未来のみなとづくり助成」 募集のお知らせ 1．助成対象：港や海辺を活動の拠点とする下記の活動に対し、助成を行います。（1）環境教育活動（2）環境保全・再生活動（3）自然体験活動
2	06.03	10 月 1 日は東京湾の日,第 2 回川柳＆photo コンテストのご案内 今回は、川柳のキッズ部門を新設して、東京湾の日　キッズ大賞を設けました。
3	06.08	東京湾環境一斉調査の参加者募集中!!事前登録制 東京湾再生推進会議モニタリング分科会、他 3 つの組織が主体となり、 協働して今年も「令和 4 年度東京湾環境一斉調査」が実施されます。
4	07.01	フォーラム川柳＆photo コンテスト作品大募集中 東京湾再生官民連携フォーラムでは、ただいま川柳＆photo コンテストの作品を大募集しています。 各施設においてもポスター、チラシなどでもご案内しております。
5	07.06	指標活用 PT データ収集（市民活動等の取り組みデータ）のご協力のお願い 《データ収集指標について》 ①東京湾および東京湾に流入する河川におけるゴミ回収活動 ②東京湾における水遊びや環境学習等のイベント ③水遊び空間における水難事故防止のための監視・パトロール活動回数 ④東京湾再生に取り組む企業・団体
6	07.15	海洋酸性化　NHK スペシャル番組のお知らせ 7 月 17 日(日）午後 9 時放送の大気中に増えすぎた二酸化炭素が海に溶け込む ことによる「海洋酸性化」の問題を取り上げた番組 NHK スペシャル。 番組中で神奈川県水産技術センターの方が、取材を受け東京湾の小型底曳網の試験操業で採集される底生生物の変遷と漁獲対象生物の変 化の関係などについて紹介しています。
7	07.26	DEXTE-K 主催《西なぎさ発：東京里海エイド》

		7/30 葛西海浜公園　西なぎさのクリーンアップ活動開催のお知らせ
8	07.27	ふなばし三番瀬環境学習館 特別展「大東京湾展 2022　東京湾へ出かけよう」がスタート ふなばし三番瀬環境学習館では、7/16 から 8/31 まで特別展を開催している。小・中学生をメインの対象としつつ大人でも楽しむことができる、 ユニークで遊び心満載の工夫した展示があふれている。
9	08.30	第 22 回東京湾シンポジウムのご案内 第 22 回東京湾シンポジウムが国土技術政策総合研究所主催により開催されます。会員の皆様には興味ご関心の高いテーマとなっています。本年度の東京湾シンポジウムは「会場」と「Web 配信」でのハイブリット開催です。
11	09.16	東京湾大感謝祭 2022、今年は 3 年ぶりに実地開催（オンライン併用） 「東京湾大感謝祭 2022」は、横浜港大さん橋ホールにて 3 年ぶりの実地開催 （オンライン併用）となります。入場は無料で、10 月 15 日(土)、10 月 16 日(日）の両日開催です。
12	10.07	東京湾再生官民連携フォーラムオープン_イノベーションのご案内 ◇10/15（土）大感謝祭 2022 横浜港　大さん橋ホールにて開催 ◇17：15～18：15　意見交換　立食形式（日本盛りブース　飲み物購入）参加
13	10.14	東京湾大感謝祭のご案内 ●3 年ぶりのリアル開催！「東京湾大感謝祭 2022 ステージ」をライブ配信・視聴無料！https://tokyobayfes.jp/ ・配信日時： 2022 年 10 月 15 日（土）11 時 40 分より配信開始。 2022 年 10 月 16 日（日）10 時 00 分より配信開始。
14	10.27	全国アマモサミット 2022in 館山のご案内 今回は館山で全国アマモサミットが 10/28～30 開催される。 全国の市民、関係者がアマモ場再生と水辺環境の保全に 取り組んできた活動の情報発信・交流の場になる。
15	10.27	東京湾大感謝祭 2022,イノベーションイベントご参加御礼-去る 2022 年 10 月 15 日、16 日に開催いたしました東京湾大感謝祭 2022 は、 事故もなく盛況のうちに閉幕
16	12.10	東京湾環境一斉調査ワークショップ開催のお知らせ 東京湾環境一斉調査の結果についての報告するとともに、東京湾の環境に関

		する関連情報の共有の場として開催するオンラインのワークショップ
17	2023 1.6	ブルーインフラ拡大プロジェクト スタート 今年度よりブルーインフラを全国の海へ拡大することを目指し、 市民団体や企業の参加を促進するためのマッチング支援及び普及 啓発を進める
18	1.12	浦安三番瀬を大切にする会主催,「海にありがとう」 うらやす市民大学公開講座のお知らせ-浦安三番瀬を大切にする会は、浦安市共催、東京湾再生官民連携フォーラム後援、市民大学公開講座
19	1.23	（公財）国際エメックスセンター主催　令和４年度 「高校生による海洋環境保全に関する公開研究発表会」（令和 5 年 2 月 11 日開催）のお知らせ
20	2.3	ドキュメンタリー映画「浦安魚市場のこと」のご紹介 浦安市の一部を切り取った人情色濃い”まち”の魚屋たちの日常を追ったドキュメンタリー映画 「浦安魚市場のこと」をご紹介
21	2.27	2/22 フォーラム第３回企画運営委員会-令和５年度に向けて、東京湾再生官民連携フォーラムの新しい事業計画・予算のお知らせ
22	3.10	指標 PT メンバー募集-あらたに指標（第三期）PT の設立が確定しました。これに伴い指標 PT のメンバー募集
23	3.27	東京湾フェリー、5 月 14 日（日）久里浜発 10：00⇒久里浜着 14：00（予定） 東京湾周遊特別クルーズのご案内（解説：フォーラム木村委員）
24	3.29	令和 5 年度 未来のみなとづくり助成」 募集のお知らせ-令和 5 年度未来のみなとづくり助成(港・海辺活動／調査研究助成)」を実施
25	3.31	「第三期行動計画、第二期期末評価報告書　公開」 のお知らせ （第二期期末評価報告書） https://www1.kaiho.mlit.go.jp/KANKYO/TB_Renaissance/RenaissanceProject/AP2_Evaluation_f.pdf （第三期行動計画） https://www1.kaiho.mlit.go.jp/KANKYO/TB_Renaissance/RenaissanceProject/Action_Program_3rd.pdf

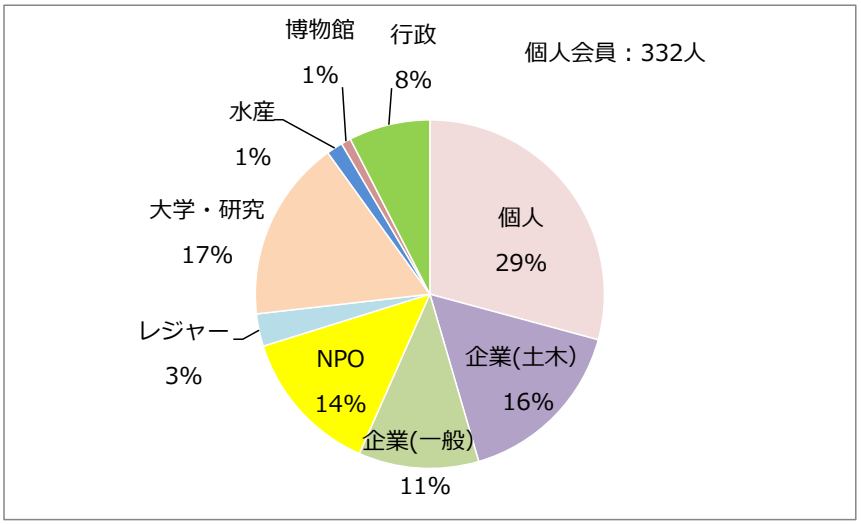
10.2 会員募集

会員募集の実施

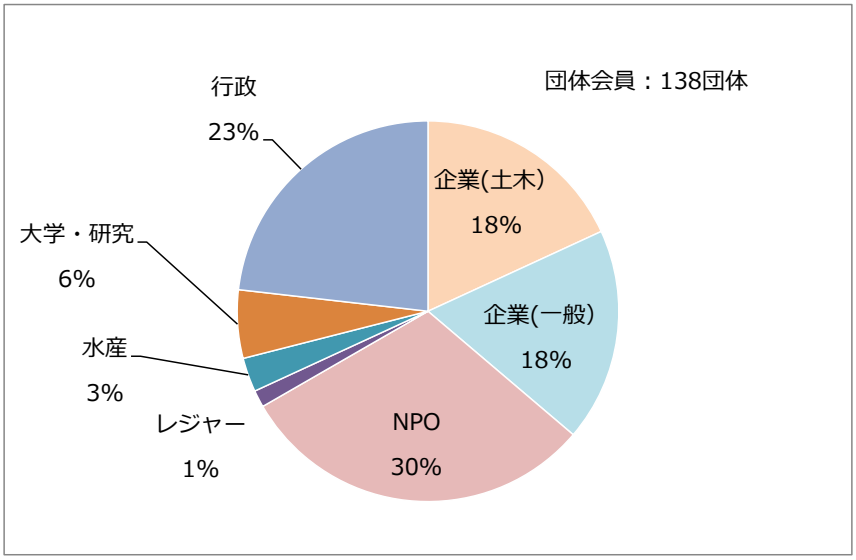
「東京湾再生官民連携フォーラム」の趣旨に賛同し、会への参加を希望し、会員への登録申し込み者。東京湾の再生にあたっては、東京湾に関わる企業、研究者、水産関係者、レジャー関係者、NPO、市民、行政等の多様な関係者が、その英知を出し合い、共に連携協働し、楽しみながら環境再生に取り組んでいる。賛同された会員の状況は下記のとおり。微増ながら毎年着実に会員が増加している。

（団体・個人会員数：令和 5 年 3 月 31 日）

個人会員　（単位：人、%）		
個人	97	29%
企業(土木)	54	16%
企業(一般)	37	11%
NPO	45	14%
レジャー	10	3%
大学・研究	56	17%
水産	5	2%
博物館	3	1%
行政	25	8%
合計	332	100%



団体会員　（単位：団体、%）		
企業(土木)	25	18%
企業(一般)	25	18%
NPO	42	30%
レジャー	2	1%
水産	4	3%
大学・研究	8	6%
行政	32	23%
合計	138	100%



10.3 東京湾/フォーラム活動の紹介・各地への情報発信

東京湾再生官民連携フォーラムの活動紹介や東京湾を題材にした情報提供活動の実施

（対象；講演会、セミナーシンポジウム、マスコミ媒体、書籍、雑誌（業界紙・学会誌等）など／出演した、インタビューを受けた、執筆した、記者が調査し記事にしたなど）

令和４年度　　PT 長、PT 活動

No	日時・講演名称 取材メディア名 書籍名など	テーマ(内容)	主体者	場　所
1	4 月 22 日 BOAO フォーラム　南シナ海サブフォーラムでの発表	ブルーエコノミーの確立に向けた社会変革（横浜でのブルーカーボンクレジット創出を紹介）	古川恵太	中国 オンライン参加
2	4 月 28 日 FM ヨコハマ「サステナデイズ」出演	江戸前ハゼ復活プロジェクトの紹介	古川恵太	オンライン参加
3	5 月 11 日 水環境学会誌特集記事「東京湾の水辺と人々のつながり」投稿	関係性が希薄になってしまった海とのつながりの再生への現状紹介と提言	古川恵太	水環境学会
4	5 月 24 日 NBCS-2 にて「How can economic measures enhance BCE conservation?」発表	政策主導型の自主的ブルーカーボンマーケットの重要性を東京湾における事例と共に指摘・紹介	フィリピン大学 BlueCARES 事務局 古川恵太	フィリピン オンライン参加
5	7 月 4 日 マルハニチロ Web サイト記事「海をはぐくむ海のゆりかご、アマモとは？」を監修	アマモおよび、アマモ場の機能・役割を紹介	マルハニチロ モニタリング PT	Web サイト「umito.」への掲載
6	7 月 15 日 東京新聞 SDGs アクション Web サイト動画出演	東京湾に棲むハゼの生態と、ハゼの命を通して考える水辺の環境保全の大切さについてインタビュー動画を掲載	東京新聞 モニタリング PT	Web サイトへの掲載
7	8 月 1 日 BS よしもと「ワシントこポスト」出演	江戸前ハゼ復活プロジェクト、東京湾の環境について解説	古川恵太	BS よしもとで放映

8	8 月 19 日 中国南海研究院「島しょの持続可能な海洋開発」研修	ブルーエコノミーに関する解説講義、東京湾での再生活動を紹介	古川恵太	オンライン参加
9	8 月 20 日 毎日新聞「NEWS がわかる」取材協力	ブルーカーボン生態系、炭素固定の解説、江戸前ハゼ復活プロジェクトの紹介	毎日新聞 モニタリング PT	NEWS がわかる 11 月号に掲載
10	8 月 13 日, 20 日, 9 月 18 日 浦安水辺の会「ハゼ釣り調査」協力	東海大浦安中高生物部の調査に同行し、指導	浦安水辺の会 モニタリング PT	千葉（浦安市）
11	8 月 27 日 佃堀りハゼ釣り体験会協力	ハゼ釣り体験会でマハゼの解説、釣り指導	佃新聞 モニタリング PT	東京
12	9 月 19 日 東京新聞「ハゼ釣りにトライ」実施支援	都内の運河域でのハゼ釣り調査を指導、東京湾再生の啓発	東京新聞 モニタリング PT	東京
13	9 月 20 日, 27 日 東京新聞 Web「ぐるり東京」東京 03 探検隊取材協力	江戸前ハゼ復活プロジェクトの紹介、東京湾の環境変化の解説	東京新聞 モニタリング PT	東京 03 探検隊サイトへの掲載
14	9 月 20 日 第 2 回里海シンポジウムでの発表	市民による生態系再生について事例紹介、解説	国連大学 海洋政策研究所 古川恵太	東京・国連大学
15	9 月 22 日 徳島大学「環境・防災カフェ」で話題提供	「ブルーカーボンで脱炭素？」として BC 生態系の役割、保全について解説	古川恵太	徳島大学 オンライン参加
16	10 月 6 日 大田区環境マイスターの会の多摩川調査、ハゼ釣り調査に協力	多摩川河口での調査に同行し、技術的アドバイスを実施	大田区環境マイスターの会 モニタリング PT	多摩川河口
17	10 月 11 日, 11 月 20 日 大丸有 SDGs ACT5 イベント協力	ブルーカーボン生態系に関する講演、現地（盤図干潟）での見学会実施	大丸有 SDGsACT5 海辺つくり研究会 モニタリング PT	東京・盤洲干潟
18	10 月 13 日 東京湾シンポジウム参加	江戸前ハゼ復活プロジェクトの成果を発表	国総研 モニタリング PT	横浜

19	10 月 15 日-16 日 東京湾大感謝祭参加	モニタリング PT として市民活動ブースで展示、ステージトークに参加	大感謝祭 PT モニタリング PT 東京湾の窓 PT	横浜
20	10 月 18 日 日本沿岸域学会講習会実施支援	「海洋・沿岸域の総合的管理の実現に向けて」に関する参加型講習会を企画・実施支援	モニタリング PT	東京海洋大学、オンライン配信
21	10 月 28 日 水環境学会「東京湾見学会」実施支援	お台場海浜公園、竹芝干潟、大田区ふるさとの浜辺公園を訪問、その管理などについて解説	東京都、竹芝多淫デザイン、海苔のふるさと会、モニタリング PT	東京湾沿岸
22	11 月 11 日, 25 日, 12 月 9 日, 23 日, 1 月 6 日, 20 日 江戸前勉強会 2022 の実施	東京湾の現状に関する情報交換および、第 3 期行動計画に向けての議論	モニタリング PT 指標活用 PT 東京湾の窓 PT 生き物生息場 PT 他	オンライン配信 東京（第 6 回のみ）
23	12 月 6 日 COAST Card 年次会合での情報提供	ケーススタディサイトとしての東京湾の環境、再生計画、活動を紹介	COAST Card プロジェクト、モニタリング PT	オンライン参加
24	12 月 23 日 ICAS BCCC Quartaly コメンタリに投稿	ブルーカーボン生態系としての藻場の保全と再生に向けた課題と期待について解説	古川恵太	Web サイトに掲載
25	12 月 22 日, 2023 年 1 月 8 日 毎日新聞東京版「竹芝干潟」記事作成協力	東京湾の環境保全活動についての特集記事で竹芝干潟を紹介	毎日新聞 モニタリング PT	1/10 に新聞掲載
26	2023 年 1 月 28 日 東京新聞「ハゼを食べる会」実施協力	江戸前ハゼ復活プロジェクトの周知、東京湾環境の解説	東京新聞 モニタリング PT	東京
27	2023 年 1 月 29 日 うらやす市民大学「江戸前講座」出講	江戸前の魚をテーマに公開講座を実施	うらやす市民大学校、モニタリング PT	千葉
28	2023 年 2 月 19 日 浦安三番瀬を大切にする会「江戸前フォーラム」実施支援	江戸前の復活に向けた窓 PT の施設の活用などについて議論	浦安三番瀬を大切にする会、モニタリング PT、東京湾の窓 PT	千葉
29	10 月 13 日 東京湾シンポジウム	ここ 10 年の水質の変化傾向	国土技術政策総合研究所	

30	10 月 15 日~16 日 東京湾大感謝祭 2022	東京湾再生	東京湾大感謝祭実行委員会	横浜港大さん橋ホール及び周辺海上
31	10 月 6 日 タウンニュース	東京湾大感謝祭 2022	東京湾大感謝祭実行委員会	タウン紙
32	11 月 5 日 釣具界	東京湾大感謝祭 2022	東京湾大感謝祭実行委員会	雑誌
33	10 月 7 日 舵オンライン	東京湾大感謝祭 2022	東京湾大感謝祭実行委員会	オンライン媒体
34	10 月 14 日 カナコロ	東京湾大感謝祭 2022	東京湾大感謝祭実行委員会	オンライン媒体
35	10 月 14 日 はまこれ横浜	東京湾大感謝祭 2022	東京湾大感謝祭実行委員会	オンライン媒体
36	10 月 7 日 ZAKZAK　by 夕刊フジ	東京湾大感謝祭 2022	東京湾大感謝祭実行委員会	オンライン媒体
37	9 月 30 日 スポーツ報知	東京湾大感謝祭 2022	東京湾大感謝祭実行委員会	スポーツ紙
38	9 月 16 日 建設通信新聞 Digital	東京湾大感謝祭 2022	東京湾大感謝祭実行委員会	オンライン媒体
38	10 月 5 日 リサイクルポート推進協議会ニュース	東京湾大感謝祭 2022	東京湾大感謝祭実行委員会	オンライン媒体
40	10 月 23 日 J:COM	東京湾大感謝祭 2022	東京湾大感謝祭実行委員会	オンライン媒体
41	ザ！鉄腕！DASH！！ (日本テレビ)	日本テレビ系列「THE！鉄腕！ダッシュ!!-ダッシュ海岸-」にレギュラー出演	木村尚	
42	つり情報 （辰巳出版） つり情報 最新号： 2023 年 3/1 号	木村尚の沖釣り海遊学 温暖化と向き合う日本の海	木村尚	
43	BoatCLUB（舵社） 2023 年 2 月号	［木村尚に語る海辺再生最前線、JAMSTEC に教	木村尚	

		わる海洋プラスチックと黒潮大蛇行の現状		
44	11 月 17 日 東京大学・海洋科学概論	統合的沿岸域管理の一例としての東京湾再生	牧野光琢	東京大学
45	6 月 3 日 長崎大学・漁業法制論	統合的沿岸域管理の一例としての東京湾再生	牧野光琢	長崎大学（オンライン講義）
46	東京水産振興会刊行月刊誌、「水産振興」636 号	東京湾と魚食の再生にむけて	牧野光琢	https://lib.suisan-shinkou.or.jp/ssw636/ssw636-01.html
47	令和 4 年 4 月 1 日～ Facebook グループページ	ぐるっと東京湾！自然と魅力のワクワク情報	東京湾の窓 PT	インターネット
48	4 月 30 日　『シリーズ<水辺に暮らす SDGs>(仮) 』	東京湾再生官民連携フォーラム　東京湾の窓 PT の取り組み事例の紹介	朝倉書店 日本湿地学会監修	2023 年 3 月頃までに発刊予定
49	7 月 16 日～8 月 31 日 夏の特別展　大東京湾展 2022	東京湾へ出かけようをテーマに 10 の視点から東京湾を知る体験型展示 展示物貸出も対応	ふなばし三番瀬環境学習館	ふなばし三番瀬環境学習館
50	10 月 15 日・16 日　東京湾大感謝祭ブース出展	東京湾の生きものと東京湾の窓施設の紹介	東京湾大感謝祭実行委員会	横浜港大さん橋ホール
51	12 月 23 日 江戸前勉強会 2022　第 4 回	「東京湾へのアクセス」 話題提供：芝原達也（東京湾の窓 PT） コメント：川辺みどり氏 ワークショップ	海辺つくり研究会	インターネット
52	ザ！鉄腕！DASH！！(日本テレビ)	日本テレビ系列「THE！鉄腕！ダッシュ!!-ダッシュ海岸-」にレギュラー出演中	木村尚	
53	つり情報 （辰巳出版） つり情報 最新号： 2023 年 3/1 号	木村尚の沖釣り海遊学 温暖化と向き合う日本の海	木村尚	

54	BoatCLUB（舵社） 2023 年 2 月号	［木村尚に語る海辺再生最前線、JAMSTEC に教わる海洋プラスチックと黒潮大蛇行の現状	木村尚	
55	令和 5 年 1 月 29 日 江戸前講座～江戸前ってなあに？	・基調講演「東京湾奥に棲み処をもとめて集まる江戸前生物の悲喜こもごも」 小泉正行氏 ・話題提供～東京湾再生のための「江戸前ハゼ復活プロジェクト」 古川恵太氏	うらやす市民大学 浦安三番瀬を大切にする会	まちづくり活動プラザ
56	令和 5 年 2 月 19 日 江戸前フォーラム～江戸前の海を伝える	・話題提供「東京湾」と江戸前（仮案） 古川恵太氏 ・東京湾の窓 PT メンバー他によるリレートーク～江戸前の海を伝える施設から考える未来の「東京湾」	うらやす市民大学 浦安三番瀬を大切にする会	まちづくり活動プラザ

セブン-イレブン記念財団

※ 東京湾再生官民連携フォーラム事業は、一般財団法人セブン-イレブン記念財団からのご支援を受けて活動しています。

ご寄付への感謝

フォーラム活動に際し、赤城乳業株式会社をはじめとして、
組織・団体・個人の方からご寄附を頂きました。感謝、御礼申し上げます。

東京湾再生官民連携フォーラム　事務局
東京都港区虎ノ門 3-1-10 第２虎の門電気ビルディング ４F
（一般財団法人　みなと総合研究財団内）
電話 03-5408-8298

この事業は「国連生物多様性の 10 年日本委員会（ＵＮＤＢ－Ｊ）」が推奨する事業として認定を受けています